

<今日の説教のポイント ルカによる福音書 23 章 44-49 節 ③ >

1 (44-45a) この「闇」は何を意味するのか？

イエス様が息を引き取る前の 3 時間（一番苦しい時間）、「闇」が訪れたことが記されています。直接は記されていませんが、イエス様の死と共に闇は去ったと考えられます。とすると、大事なことは、闇はイエス様の苦しみの大きさと関係しており、同時にそれは神様が送られた救い主を殺してしまう人間の罪の大きさを示す闇でもあると考えなければならないということでしょう(22:53 参照)。

2 (45b-47) 「父よ、私の霊を御手に委ねます」は何を意味するのか？

これは「父なる神に命を返します（創世記 2:7 の「命の息を吹き入れられた」の逆）を意味し、イエス様が息を引き取られたこと（あるいはその時）と対応しています。同時に、それは人間の罪による闇に覆われていた世界に神様の光が差し込むことを意味する「神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた」こと（あるいはその時）と対応しています。つまり、イエス様が罪人の罪を負って死なれたことが、人間の罪による闇が打ち破られてそこに光が差し込むことになったことを示しているのです。キリスト教の最も重要な出来事の瞬間がこの時であることをまさに示しているのです！（犠牲の死について：ミスターチルドレンの歌「HERO」の歌詞。タルコフスキーの映画「サクリファイス」）。

3 (48-49) 人々がこの出来事を体験して覚えたことは何か？

「この人は正しい人だった」の「正しい：ディカイオス」は、聖書では特に「神の義を行う正しさ」を意味しています。よって、百人隊長は、②で述べたこと、つまり、イエス様が死なれたことが闇の世界に光をもたらしたことに義なる神様の救いを見たので、「イエス様は正しい人（＝神の義を行う人）だったのだ」と驚き、神様を賛美したのです。また、「見物人も皆、胸を打ちながら帰って行った」の「胸を打つ」とは「罪を悔いる姿」を示しています(18:13)。すなわち、彼らはまだこの出来事が私たちの思いを超えた、神様の大きな救いの出来事であることは分からず、この時は救いようのない自分たちの愚かさを思うだけの状態だったのです。しかし、自分の罪深さに打ちのめされたからこそ、この後、神様の破格の恵みを驚きの喜びをもって受け入れることができたとも言えるのです。逆転の恵み、満載です。